

令和4年コシヒカリ栽培こよみ



みな穂農業協同組合
黒東地域農業技術者協議会

技術対策 ① 5月10日以降の田植 ② 適正穂数の確保と過剰な籾数の防止 ③ 稲体活力の維持 ④ カメムシによる斑点米防止

月	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
生育	4/8～ 浸種	4/19～ 播種	育苗期	5/10～ 田植	活着期	6/8 有効分げつ期	無効分げつ期	7/14 幼穂形成期	穂ばらみ期	8/3 出穂期	登熟期	9/11 成熟期		
水管理	耕起		代かき	深水管理	浅水管理	中干し		間断かん水	飽水管理	湛水管理	間断かん水			
栽培のポイント	●ケイ酸質資材の継続的な施用 ●堆肥、発酵鶏ふんの施用 ↓ 春に有機物を散布して地力と葉色の向上を！ 													
	●ゆつくり耕起し作土を15cm以上確保 ●耕起・代かき ●軟弱徒長苗に注意（ハウスの積極的な換気） ●老化苗に注意（播種・田植19日程度） ●健苗育成 													
栽培のポイント	●活着後の浅水管理（水深3cm） ●植付本数3～4本 ●植付深さ3cm ●坪当たり70株植え ●5月10日以降の田植 初期茎数の確保が 高品質・収量安定のカギ 													
	●入排水をスムーズにする ●溝切りを確実に ↓ 過剰籾数の防止と 根量確保による 稲体活力の維持 													
栽培のポイント	●畦畔や雑草地の草刈でカメムシ撲滅 ●草刈りの徹底 ↓ 幼穂形成期以降の飽水管理 水は地表に不足跡に少したまる状態 													
	●出穂の7日前頃に必要に応じて追加穂肥 ●穂揃期の葉色を高める ↓ 病害虫防除の徹底 													
栽培のポイント	●フェーンが予想される時は事前に入水 ●刈取りの5～7日前までは間断かん水 ↓ 出穂後20日間の湛水管理 刈り遅れに注意！ 													
	●刈取り開始は籾黄化率80～90%頃に ●適期刈取りで胴割防止 ↓ 適正な乾燥調製 仕上げ水分は14.5～15.0% 													
栽培のポイント	●栽培記録簿の記入漏れがないか確認 ●次年度に向けて秋耕 													

土づくり資材の施用基準 (10a当たり)	
珪酸石灰	160kg
＋ 苦土重焼燐	20kg
シリカパンチF	120kg
アサヒニューテツ	160kg
有機質資材	
グリーンウェイブ2	60kg
発酵ケイフン	75kg
(春施用基準量)	

適正な基肥量の施用	
側条施用量 (10a当たり)	一発肥料の場合は
ジョートコシヒカリ1号または2号	38kg
苗箱施薬 (使用量: 50g/箱)	
田植前3日～当日に苗箱施用 (播種同時処理も可能)	
ルーチンブライト箱粒剤	
密苗推奨: プーンレバード箱粒剤	
いもち病、紋枯病、ドロムシ、ニカメイチュウ	
除草剤との間違いに注意！	

除草剤の体系	
● 散布後5日間は湛水状態を保ち7日間は落水しない！ (散布量は、すべて1kg/10a)	
一発処理	体系処理
プライオリティ 1キロ粒剤 田植後5日～10日後	11日～20日 どちらか 20日～30日
または	かねつぐ 1キロ粒剤 田植当日～4日
● 上記の除草体系でも残草がある場合 ノビエ・広葉雑草 両方に効果が高い！	
フォローアップ 1キロ粒剤	サンパンチ 1キロ粒剤
	レブラス ジャンボ
	ノビエのみ トドメ MF 1キロ粒剤

病害虫防除	
● 2回防除で病害虫シャットアウト！	
基本防除	
1回目 出穂直前 7月下旬	ブラシントレバリダ粉剤 4kg/10a いもち病、紋枯病、カメムシ等
2回目 穂揃期 8月上旬	ラブサイドキラップ粉剤 4kg/10a いもち病、カメムシ

秋耕と春耕の2回掛け	
秋耕のメリット	
① 稲ワラの腐熟促進	→ ワラを腐植へ → 春先のワキの防止
② 春耕の効率化	→ 作土深の確保
土づくりも積極的に！	
牛ふん堆肥 1～2t	
発酵ケイフン 150kg	